

令和6年度 東はりま特別支援学校 学校評価結果

設問	重点	項目	担当校務部	評価項目	職員評価		保護者評価		成果と課題	外部関係者評価
			関連する取組		昨年度	今年度	昨年度	今年度		
1	こどもの育ちを実感する学校づくり	教育課程 授業改善 生きる力 主体的・対話的深い学 び	(教務部) 各教科等の年間指導計画作成 学習指導要領に基づく授業計画	児童生徒の発達段階をふまえ、学習指導要領に 基づき年間指導計画を作成し、入学から卒業まで の連続した授業の充実を図っている。	3.2	3.4↗	3.4	3.6↗	学習指導要領に基づいた年間指導計画の作成 や、内容項目チェックリストを作成し、系統性のある 授業を行っている。また内容項目チェックリスト を各学期末ごとに確認することで、授業内容の確認 や計画の修正を心がける意識ができてつある。	【評価できる点】 ・授業改善に向けた取り組みを、教務 部を中心にして、学部・学年を超えた 全校的な取組として継続して行われて いる。 ・設問1、4、18については前回評価 から職員評価と保護者評価がほぼ一 致して上向きな状況であることから、 前向きな取り組みができていたと思わ れる。 ・コロナ禍が終わり、生徒が外出等を 通して体験学習ができている点につい て、本当に良かったと思う。 ・子どもたちが家庭の中では経験でき なかったことを学校で安心して経験す ることができている。先生方と保護者 に信頼関係があるからだと思う。
2			(教務部) 教育活動全般	確かな学力と豊かな心を育むと共に、生きる力を 身につけるため、対話的で深い学びにつながる指 導に取り組んでいる。	3.3	3.3	3.4	3.5↗	児童生徒の実態に応じたグループ編制や指導形 態を工夫し、児童生徒が互いにかかわりあえる授 業や取組を行い、豊かな心をはぐくみ、対話的で 深い学びにつながるよう指導を行った。また、学 習指導要領にのった系統性のある指導計画 に学校全体で取り組み、確かな学力をはぐくむ指 導を行った	
3			(研究研修部) 授業研究 講師招聘による研修会	児童生徒の実態を把握しつつ、主体的・対話的で 深い学びを意識した授業改善に取り組んでいる。	3.2	3.3↗			全職員の縦割り班で、各学部から教材や授業内容を紹 介しあう研修会を実施し、困り事も話し合う機会を持っ ことで、日々の授業内容を考えるきっかけにした。また、 夏季休業中のワークショップに外部講師を招き、指導困 難な児童生徒の実態を共有して指導内容について具体 的な助言を得る機会を複数持ち、実践的な指導方法の 紹介も受けた。来年度にはワークショップ以外にも計画 的に外部講師を依頼したい。	
4		体験活動	(各学部) 体験学習 地域清掃 フェスタ 宿泊学習 自然体験学習	校内外での体験活動を通して、社会生活を送るう えに必要なスキル(挨拶や交通ルール、公共のマ ナー)を育てている。	3.5	3.6↗	3.6	3.7	体験学習等の事前学習でルールやマナーについて学 び、実際の場で実践している。(高) 宿泊学習に関わる準備や活動において、主体的、創造 的、協動的に取り組むことができた。体験学習では、校 外での活動を通して、社会性を高め、生活経験を豊か にする機会となっている。(中) 体験学習では、生活年齢や発達段階を念頭に各学年で 目的・内容を検討し、事前学習も含め、実生活に活きる 活動とすることができた。(小)	
5			(総務部・各学部) 学校行事 学部・学年行事 学級活動	児童生徒の実態を踏まえ、行事の精選と内容を 検討し、活動の充実に努めている。	3.5	3.5			行事検討委員会を開催し、諸行事に関する意見や課題 について検討した。増築工事で施設の使用制限があつ たが、スポーツフェスタは学年実施にするなど、新たな 形で開催できた。(総務) 学校行事については学年会や学部会で意見集約し、行 事検討委員会で内容等を検討している。今年度はス ポーツフェスタが学年ごとに開催され、練習や日程の調 整がしやすくなり生徒の負担も減った。(高) スポーツフェスタや東はりまフェスタでは、各学年の授 業で取り組んでいる内容を中心に児童生徒にとって過 度な負担にならないように、発表に取り組むことがで きた。(小・中)	
6		教員の専門性	(研究研修部・支援部) 研究授業 初任者校内研修 校内教員による研修会 教材展 スクールカウンセラーによる研修会、コ ンサルテーション	授業研究や専門家に学ぶ機会を設け、特別支援 教育の専門性向上に努めている。	3.4	3.4			進路指導部長から本校の進路指導について学ぶ研修 会を実施し、最終的に目指す姿を全教員で考える機会 を持った。また、教材展を開催して多様な教材を学部 を越えて紹介し、授業に役立っている。初任者研修を中 心に研究授業を通してより良い授業を考える機会を 持っている。来年度は、兵庫大学との連携を通してさ らに専門的な助言を得る機会を持ちたい。(研究研修部) 初任者校内研修では、支援部Coで10回を担当して実施 した(自立活動、個別的教育支援計画、センター的機 能、障害理解①、障害理解②、発達障害、発達検査、 WISC知能検査、不登校支援、高校通級)。 スクールカウンセラーによる研修会では、ABAの基本を 学び対応を協議することができた。またPECSの指導事 例等を共有し、代替的コミュニケーションの指導につ いて学ぶ機会を提供できた。(支援部)	
7		情報教育 ICT活用	(情報部) 情報研修 ICT(タブレット端末・電子黒板)活用授 業	ICTに関する研修により、知識や活用の幅を広げ ると共に、情報モラルについても指導している。	3.1	3.1	3.5	3.5	新転任の職員には、機器の設定情報を配布する と共に、使用方法のマニュアルを作成・配布した。 情報セキュリティ実施手順の研修をし、新しい機 器の取り扱い説明書を作成・配布した。全般的な ことに関する質問はほとんどなくなったが、1年に 1度ぐらいの事象に対する疑問が自力で解決でき るようになるのが課題である。	
8		道徳・人権教育	(総務部) 教育活動全般 道徳	生命や自分を大切にすると心、他人を思いやる心 を育てる視点を意識し、教育活動に取り組んでいる。	3.3	3.3	3.4	3.5↗	人権教育研修会を教職員対象に実施した。人権 推進委員会で職員アンケートや過去のテーマに ついて検討し、テーマや講師を選定した。今年度 はヤングケアラーについて研修会を行い、人権啓 発に努めた。(総務)	
9		健康、食育	(保健部) 食育 保護者との連携、給食指導	健やかな体づくりに向けて、栄養教諭・保護者と連 携し学校教育全般を通して食育に取り組んでい る。	3.4	3.5↗	3.7	3.7	食育アンケートを今年度も実施、家庭の食事 の様子や、嗜好の把握に努め、学校全体で 共有している。また、日々の食事の様子の把 握をおこないより良い栄養状態を保てる働き かけを行っている。さらに懇談等の機会を通じ て個別に栄養指導を行っている。	【今後期待したい点】 ・今後も授業改善に向けて、改善した 点について校内で具体的に共通理解 をされ、それをもとにさらに改善に向 けた取り組みが継続されていくことを期 待します。 ・設問12は、教員と保護者の間の評 価にズレを感じるため、今後その分析 を行いながら来年度に向けて取り組ん でもらいたい。 ・小学部の保護者は、今後(中学部・ 高等部)の学校生活や卒業後のことが よくわからないため、先輩保護者のお 話を聞く会があればよい、と思う。
10		防災 危機管理対応	(管理図書部) 状況(火災・地震・津波)を想定した訓 練 不審者対応訓練(警察署員招聘) 引き渡し訓練	児童生徒引き渡し訓練実施等、災害対応に取り組 んでいる。また、他の防災マニュアルについても随 時見直し、危機管理体制の充実を図っている。	3.5	3.6↗	3.7	3.7	緊急対応マニュアルの見直しを毎年実施してい る。また昨年度実施した訓練での気づきや課題 を、今年度に反映して計画し、実施した。また非常 時への備え(備蓄品や非常持ち出し袋)を検討し 関係機関と相談しながら、計画的に準備を進めて いる。 近年、想定を超える災害が多発しているため、不 測の事態に備えていけるよう、今後も積極的に準 備をしていきたい。	
11		いじめ 生徒指導	(生徒指導部) いじめ防止基本方針	いじめ防止基本方針に基づき、人権意識を高く持 ち、児童生徒の望ましい人間関係の育成に努めて いる。	3.4	3.4	3.6	3.6	いじめ見逃しゼロを目標として児童生徒の日々の 小さな変化を見逃さないように目配り、気配り を行っている。定期的な生活アンケートの実施によ り未然防止に努めている。課題としては、来年度 からスマホ持ち込み可となるため、SNS上でのトラ ブルが予想される。来年度はこれまでよりもよりア ンテナを高くして児童生徒のSOSに気付けるよう に注意喚起をしていきたい。	
12		個人情報保護	(情報部) 個人情報の管理 USB等によるデータ管理の遵守 取り扱いファイル規定に基づく情報管 理	個人情報保護の観点に基づき、児童生徒や保護 者に関する情報など、情報の管理を適切にしてい る。	3.6	3.4↗	3.6	3.7↗	「情報資産の分類とその管理(取扱い)」に基づ き、適切に管理している。情報セキュリティ実施手 順で、個人のスマホ等を利用する場合の規定が あるが、具体的な使用状況までは把握できておら ず個人の良心にゆだねられているのが課題であ る。	
13		個別的教育支援計画	(支援部) 個別的教育支援計画の作成 目標の共有・連携・実態把握 合理的配慮の合意形成	本人・保護者の願いに基づき、合理的配慮の合意 形成を踏まえた目標を設定し、達成に向けて取り 組んでいる。	3.5	3.5	3.7	3.7	入学時の「個別的教育支援計画事前調査票」や 懇談等で本人・保護者の願いを確認し、合理的配 慮の合意形成をし、目標を設定している。より適 切な目標設定、支援内容を設定できるよう職員に 研修や情報提供を行うことが課題である。	
14		個別の指導計画	(教務部) 年間指導計画(新様式) 個別の指導計画 教科別の目標設定と3観点による評価 し	各教科の目標を明確にした「年間指導計画」を作 成。実態や段階、3観点を踏まえた「個別の指導計 画」を作成し、指導と評価を行っている。	3.5	3.5	3.7	3.7	年間指導計画を新様式に変更し、内容をチェック する仕組みを取り入れることで、実態に応じた年 間指導計画を作成することができた。個別の指導 計画作成の際の参考資料を配布し、3観点による 目標作成と評価を行いやすくとともに、管理 職に加えて学部長にも助言を受けることで、より 児童生徒の実態に即した学習活動に結び付く個 別の指導計画が作成でき、指導の充実に役立て ることができた。	

	15	交流及び共同学習	(各学部・教務部) 副籍校の確認(小中)、居住地校交流(小中) 播磨中学校、播磨南中学校との学校間交流(中2) 播磨南高等学校との学校間交流(高: ALT、美術部、生徒会:オンライン交流)	児童生徒の教育的ニーズを十分把握し、交流の目的を理解し双方の児童生徒にとって効果的な活動を設定している。	3.3	3.4				い積極的に関わりを持つことができた。部活(美術、サッカー、陸上)の交流については相手校の部の廃止等もあり、今年度は行わなかった。今後実施が困難である。播磨南高校との距離的な問題もあり、授業の交流はなかなか行えない実態があるが、有意義な交流ができるよう内容を今後も検討する必要がある。(教務・高) 播磨中学校、播磨南中学校との学校間交流では、事前に、ゲームの内容ややり方を教師間で打ち合わせ、事前学習に取り入れることで、スムーズに実施できた。地域の学校に通う同年代の友だちと有意義な交流ができた。 播磨小学校との学校間交流では、相手校で事前学習を行い、特別支援学校やそこで学ぶ児童についてなどについて知ってもらうことで、スムーズに交流することができた。(小) 各学部交流の事前打ち合わせでは、交流の内容だけでなく、お互いが交流の意義や目的を確認しながら内容を話し合うことができた。(教務)
	16	キャリア教育	(進路指導部) キャリア教育発達段階表	個々の課題解決に向けてキャリア教育発達段階表を意識した授業を実践している。	3.2	3.2	3.5	3.5		本校のキャリア教育についての取組を年度当初に教員へ説明ができてなかった。現在あるキャリア教育表、清掃の取組、「就労に向けて育成すべき力」の取り組み方について次年度からは年度当初に職員へ伝えていく。また、キャリア教育表と「就労に向けて育成すべき力」を合わせて「キャリア教育発達段階表」を今年度作成している。これについても進路指導部で内容を理解したうえで、次年度教員へ示したい。 キャリア教育の担当校務部が進路指導部だけでは弱く、学校教育全体で取り組むべきものであるため、教務部や各学部でも担当して考えてほしい。
	17	信頼に応える学校づくり	(進路指導部) 保護者向け進路研修会、見学会 進路懇談会(高)	福祉や労働などの関係機関やPTAと連携し、本人・保護者の願いに寄り添った継続的な進路指導に取り組んでいる。	3.4	3.4	3.6	3.5		今年度は3年に1度の福祉勉強会を実施した。参加者からの感想では、毎年実施してほしい。また、事業所見学会を充実してほしいとの要望が出された。PTA研修部とも検討し、保護者向けの研修会・見学会の充実を考えたい。 夏季休業中教師向けに、1日3事業所を見学する見学会を3日実施した。参加者からは概ね「良かった」「進路指導の参考になった」等の良い評価であった。夏季休業中の職員1日体験実習と併せて、進路先の事業所を知る機会を設けていきたい。 保護者向けの進路セミナー実施を考えていたが今年度は実施できなかった。卒業生の保護者が作った福祉事業所や一般社団法人で現役保護者向けに実際に体験してきたことを話してくださる方がいるので、次年度は実施したい。
	18		(進路指導部) 進路説明会 保護者懇談・相談	進路説明会等を実施し、早期より保護者に卒業後の生活に向けて情報提供ならびに意識啓発を行っている。	3.4	3.5	3.4	3.5		進路説明会では、その時期その時期に必要な情報を提供することができた。説明会前には、実施学年職員に概要を説明し、学年全体で内容を把握してもらい保護者への理解が深まるようになった。今後も保護者の要望にこたえつつ、わかりやすい内容で伝えられるよう努力したい。
	19	連携 (職員)	(各学部) クラス・学年・学部・学部長会・各種委員会による情報共有	児童生徒の個々の課題に対して、担任団・学年団・学部等で各会議をもち、情報共有を図っている。	3.6	3.5				生徒の問題行動等に気づいて、先生で対応する必要がある情報は共有は学校全体で行い、職員の注意喚起を行った。(高) クラス会や学年会、学部会で、情報交換や意見交換の場を設けることで、共通理解を深めることができた。(中)各種会議を通じて情報共有を図ることができた。日々の指導については、担当窓口を中心としながらも、クラスや学年、学部全体で指導するという意識を全員がもてるようにしたい。(小)
	20	センター的機能	(支援部・総務部) 公開研修会 オープンスクール 高校Coとのネットワーク会議 地域特別支援担当者会への出席 教育相談(就学前、小中高校への案内配布)	教育相談や研修会、各種連絡会により、他機関や地域の施設・学校との連携を深め、センター的機能としての役割を推進している。	3.4	3.4				公開研修会として、児童生徒との関わり方を学ぶCAREワークショップを開催した。また、研究研修部と連携して、教材教具展を地域の小中学校の先生方が見学できる機会を設けた。 高等学校を通級による指導を進めていくために、アセスメントなどにに関わり助言を行った。(支援部) 6月と9月にオープンスクールを計4日間実施し、外部から延べ356名の参加があった。授業参観との同時開催や、実施期間について検討課題がある。利用者アンケートをQRコードにしたが、受付方法などのデジタル化も検討する必要がある。(総務)
	21	情報発信	(総務部・情報部・各学部) 学校新聞 学部・学年日より PTA新聞 学校ホームページ・ブログ オープンスクールの実施	学校ホームページや紙面などの方法で効果的な情報発信を行い、地域や保護者に対して、本校教育への理解啓発を進めている。	3.5	3.5	3.5	3.6		学校新聞を月1回発行し、行事予定や活動の様子を保護者に向けて発信した。今後、ホームページでの情報発信を検討したい。オープンスクールの開催は、関係各所への依頼文とホームページを併用して発信した。PTAと連携して学校新聞を2回発行した。(総務) 「学校ホームページ更新規定」を定め、適切に管理できるようにした。著作権や個人情報について、マンパワーで配慮する部分が多いのが課題である。(情報) こまめにブログを更新し、学校内外への情報発信を行っている。学年通信を月1回のペースで発行し、写真等を使ってわかりやすく児童生徒の活動を保護者に知らせている。(小中高)
	22	働きがいのある職場づくり	(管理職) 定時退勤日の推進 業務改善 サービスシステム	勤務時間の適正化に向け、業務改善や意識改革に取り組んでいる。	3.2	3.3				定時退勤の積極的な呼びかけや具体的な業務改善を行うことができなかった。毎年であるが、泊を伴う行事での超過勤務を割振りとして他の日に振替することも完全にはできていない。どのようにすれば超過勤務を減らすことができるのか、管理職での検討が必要であるとされている。今年度は旅費システムも稼働が始まり、開始当初は混乱もあったが、先生方が使い方に慣れてこられたので、今後出張の際の負担は少し軽減される見込みである。
	23	連携 (外部機関)	(支援部) 外部機関や専門家との連携 拡大支援会議 主治医訪問	児童生徒の個々の課題について、家庭・外部機関と協力・調整を図り、情報を共有して課題解決に取り組んでいる。	3.4	3.4	3.3	3.4		普段から必要に応じて拡大支援会議を開催するなどとしている。また主治医訪問などにつながるよう職員に情報を提供、コーディネートしている。
	24	開かれつながる学校づくり	(総務・教務・支援部) 家庭訪問・個人懇談会 授業参観 教育支援計画・指導計画の手立ての合意形成	児童生徒の個々の課題について、懇談会等を通して保護者と確認共有し、課題解決に取り組んでいる。	3.6	3.6	3.5	3.5		個人懇談や授業参観についての案内文を、計画通りに保護者へ配布できた。(総務) 懇談では、事前に関係する分掌や学年主任と連携しながら記録用紙の項目を作成し、児童生徒の課題を確認し、課題解決につながるよう工夫した。(教務部) 懇談等で教育支援計画の支援の方向性について合意形成や経過確認、振り返り、引継ぎ事項の確認を行っている。(支援部)
	25		(各学部) 校外歩行:播磨町内(小) コミュニティ活動(地域清掃)(中) 農業体験:田植え、脱穀(中) 考古博物館見學と組み組体験(高1) あえの里、清掃と交流(高1) 地域のシニアクラブとの交流(高1) 考古博物館屋外清掃(高) 東はりま作品展(作品出品):全校生	小学部、中学部の児童生徒は、将来の地域交流に向けて主に校内で挨拶、清掃の方法などを学習し、準備している。中学部、高等部の生徒は、校区の方々との交流、地域貢献活動に取り組んでいる。	3.3	3.5				あえの里との清掃と交流については高1の一部の生徒が参加し、少人数での交流をした。考古博物館との清掃交流は学年単位で行い、行き帰りに地域の方々と挨拶をするなどのふれあいも行っている。校舍新築工事の関係で、地域のシニアクラブの方とのグラウンドゴルフ交流は中止になりかけたが、シニアクラブの方々の強い希望で実現した。(高) コミュニティ活動について、中1段階は、校内で清掃の仕方を学習し、中2になったら校外で実践するというように系統的な学びのかたちができつつある。農業体験においても、中2で脱穀体験、中3では、田植え体験をさせていただき、交流だけでなく食育の面でも、学びの機会となっている。(中) 各学年の校外歩行では、道ですれ違う近隣住民の方に対して教師と一緒に挨拶したり、手を握ったりすることが
まとめ		今年度もFormsアンケートを基本としたアンケートを行った。保護者には家庭の事情に合わせてプリントによる回答との選択で回答をお願いした。職員の回答率は100%、保護者からの回答率は80%(昨年度は70%)であった。 今年度は、学校における感染症対策がコロナ禍前と同様になったため、特に保護者は制限なく来校できたことで子どもたちの学校での姿を見て安心されたように思われる。昨年度は、ICT機器の使用状況や福祉、医療との連携について保護者に十分な説明がされていない、という声もいただいたが今年度はおおむね学校生活には理解をいただいている。また、保護者、職員ともに評価が良くなっているものが増えた。一方で、職員の情報管理への危惧の声が上がっていることが現在の本校の課題であると考える。 令和6年10月下旬より増築校舎の工事が始まり、グラウンドの使用範囲が当初の予定の半分以下となったことで、児童生徒の活動に大きな支障が出ている。その上に、来年度はさらに児童生徒数の増加が見込まれているため、一層児童生徒が安心して学習できる環境づくりに努めていきたい。								